

事業所名	グループホーム きのじょう (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成21年 3月31日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 社会福祉法人生活指導員、居宅介護支援事業所管理者 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援 専門員、難病患者等ホームヘルパー B:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・のどかな田園地帯の中にホームはあり、少し足を延ばせば、スーパー等の商業施設もある。ホームの名が示すとおり、後方には、山城「鬼の城」が控えており、自然豊かな静かな環境の中で入居者は暮らしている。 ・入居者へのプライバシーに配慮し、随所にプライベートな空間を確保し、時には一人で過ごしたり、気の合う入居者同士でのんびりとくつろげるよう、共用空間のレイアウトを工夫している。 ・管理者は、職員の知識習得や介護技術の向上に熱心に取り組んでおり、日々の実践の場を通じて職員のレベルアップ向上に努めている。 ・家族と共に入居者を支えていけるよう、電話での相談はもとより、自宅まで出向いたり、訪問してもらったりしながら家族との信頼関係の構築に努めている。 ・母体法人が医薬品会社でもあり、医療面での連携体制が整っている。総社市内の内科・外科や、認知症に詳しい医療機関とも提携し、入居者の健康な暮らしを支えている。 ・開所してまだ一年ほどではあるが、組織構成・書類面の整備等、しっかりと管理・運営しており、入居者に安全・安心な介護の提供に取り組んでいる。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
特に改善の余地があると思われる点はない。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月からは2ユニットとなり、新たな体制での取り組みが始まるが、理念の実現に向けて、さらに介護水準を高め、入居者の暮らしを支え続けていけることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの個性や生活スタイルを尊重し、その人らしく自立した生活を送れるよう、職員は待ちの姿勢で入居者の様子を見守り、一人ひとりの分かる力を活かした暮らしを支援している。 ・家族とも協力しながら入居者の暮らしを支えられるよう、電話で相談したり自宅に出向いたりしながら、家族との関係の構築に努めている。 ・地域の認知症介護を支える、地域密着型の介護事業所として、地域に溶け込んだホームとなることをめざしている。 ・将来、自分がこのホームで過ごしたいと心から思えるホームをめざしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮らしている生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活のリズムや生活習慣を入居後も継続できるよう、入居者のペースを大切にしながら暮らしを支援している。また、入居者の得意とする自分を自然にできるような場作りを行い、暮らしの中に役割を持つことで気持ちに張りや生きがいを感じてもらえるように働きかけている。 ・職員は、入居者と目線を合わせ、声のトーンや呼び掛ける言葉にも注意し、慌てず、ゆっくりと余裕を持って介護にあたり、入居者が安心して暮らせるように心がけている。 ・ホーム内の空間を活かし、居場所となるスペースを設け、時には一人で過ごしたり、気の合う者同士で過ごせるように環境を整えている。また、和室を囲むように廊下やキッチン、リビングが配置されており、入居者に自由に回遊してもらい、拘束感やストレスなく暮らせるように取り組んでいる。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの経歴や能力の把握に努め、入居者が得意とする分野で役割を作り、持てる力を生活の中で発揮してもらい、生き甲斐ややり甲斐を持って暮らしてもらえるように働きかけている。 ・入居者一人ひとりの尊厳を大切にしており、居室等プライベートな場所へ立ち入る際には必ずノックをして許可を得てから入り、トイレの開閉にも気をつける等、誇りやプライドを傷つける事がないように留意している。 ・個人に関する記録類は、事務室の鍵の掛かる場所に保管して管理している。職員の採用時には、守秘義務に関する書類を交わし、個人情報が出ることがないように徹底している。 ・入居者の写真を撮る際には、無断で撮影することがないように、本人の意向を確認してから行っている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、職員の資質向上を積極的に推し進めており、その時々々の状況に応じて現場で指導を行っている。また、内部研修では、一つの事柄について何回かに分けて研修を行い、職員間の共通理解を深めている。 ・管理者は、職員それぞれの持ち味を活かせるよう、日頃から職員がどのような夢や希望を持って働こうとしているのか、どのような感性を持っているのかを把握するように努めている。 ・トラブル等の問題点を時系列に整理し、その原因を探って今後の対策を検討し、再発防止に向けて前向きに取り組んでいる。 		